

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年6月14日現在

機関番号：17401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23653128

研究課題名（和文） 「交渉紛争解決学」の確立に向けた複数学問間の横断的再構成

研究課題名（英文） Improvement of “the study of negotiation and conflict resolution” :Inter-disciplinary approach.

## 研究代表者

安川 文朗 (YASUKAWA FUMIAKI)

熊本大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：90301845

## 研究成果の概要（和文）：

現代社会がかかえる様々な紛争やコンフリクトの解決を目指して、法学、経営学、経済学、哲学、心理学、交渉学等の知見を複眼的に動員、再構成し、包括的な「交渉紛争解決学」を確立する学問的基盤の形成を試みた。1年目に研究目的の合意形成に向けたワークショップを実施し、2年目で論文執筆に傾注した。その成果は、『現代社会と紛争解決学～学際的理論と応用～』として書籍化されることとなった。

## 研究成果の概要（英文）：

To seek the resolution of various disputes and conflicts occurring in modern society, we tried to establish a platform of comprehensive discipline of “negotiation and conflict resolution” by inviting and rebuilding inter-disciplinary perspectives as law, management, economics, philosophy, psychology and negotiation. We coordinated a workshop for making consensus into the purpose of the study as first year activity, then, in the second year, we concentrated on writing a paper in each academic aspect. The outcome of our study is combined as a book of “Dispute Resolution in Modern society: inter-disciplinary perspectives”

## 交付決定額

（金額単位：円）

|       | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 交付決定額 | 2,700,000 | 810,000 | 3,510,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：紛争解決、交渉理論、コンフリクトマネジメント、調停、修復的正義

## 1. 研究開始当初の背景

現代社会に生起する様々な種類やレベルの紛争問題に対して、政治的、経済的、心理的な問題解決が、個別の事例について個別に提案されてきた。しかし多くの紛争問題はそうした個別対応だけでは容易に解決せず、たとえ一見解決したかにみえても、爾後に多くの課題を残している。つまり、紛争において用いられる学問的知見が紛争問題の解決に実際にどのような貢献を

しうるかを明らかにしたうえで、各専門領域がそれぞれの学問的特質を發揮して現代社会の紛争問題に対応できるような包括的な学問体系の在り方を提示する必要がある。

## 2. 研究の目的

以上のことから、本研究では法学、経営学・経営学、心理学、哲学、交渉学など、紛争解決の場面で個別に用いられてき

た学問的体系が紛争解決においてそれぞれどのようなメカニズムでどのような貢献をするのかを明らかにするための理論的、実証的検討を行うこととした。

### 3. 研究の方法

研究方法は、1) 文献的検討と実際の紛争解決プロセスの実態調査を通じて、紛争解決に必要な学問的アプローチの種類とメカニズム、期待される貢献度について明らかにして、「紛争解決学」の再構成を提案すること、2) 具体的な社会事例や実験的な調査結果を通じて、そうした学問的再構築が実際にどう貢献するかを提示することである。

### 4. 研究成果

本研究の成果は、1) 1年目の成果として、各分野の基礎的論文や知見(理論実証とも)が提起され、それをもとにワークショップを開催して各専門分野の紛争解決に対するアプローチの違いや期待される貢献度について共通認識を得た。そして2) 2年目の成果として、各分野の研究者が当該分野の専門的アプローチから紛争解決問題をテーマとした研究論文を執筆し、それをまとめて、論文集「現代社会と紛争解決～学際的アプローチ～」(ナカニシヤ出版から出版予定)を作成した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 安川文朗、専門化のゆくえと医療の未来、日本医療病院管理学会誌、査読無、50巻2号、2013、1ページ
- ② 石原明子、東京電力福島第一原発災害下で起こっている地域や家庭等での人間関係の分断や対立について一水俣病問題との比較と紛争解決学からの一考察一、熊本大学社会文化研究、査読有、11巻、2013、1-21
- ③ 大淵憲一他、関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情：知覚された欲求責任違反の媒介的役割、社会心理学研究、査読有、27巻、2013、161-173
- ④ 奥村哲史、IRP モデル適用の試み：カンボジアにおける社会基盤整備事業にかかる住民移転と紛争を事例に、名古屋市立大学ワーキングペーパー、査読無、J 01、2012、1-13

[学会発表] (計2件)

- ① 安川文朗、医療制度設計のコンフリクトマネジメント、東北大学 GCOE ワークシ

ョップ「紛争解決と公正」、2012. 3. 15、法政大学

- ② 外村晃、紛争解決と寛容性の考察：当事者に寛容をもたらす諸要素、東北大学 GCOE ワークショップ「紛争解決と公正」、2012. 3. 15、法政大学

[図書] (計2件)

- ① 大淵憲一、ミネルヴァ書房、よりよい社会をもとめて(不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正)、2013、336ページ
- ② 安川文朗、石原明子(編)、ナカニシヤ出版、現代社会と紛争解決学：学際的理論と応用、2013、総ページ200ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://fumiakiyasukawa.web.fc2.com/>

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

安川 文朗 (YASUKAWA FUMIAKI)  
熊本大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：23653128

#### (2) 研究分担者

岡部 勉 (OKABE TSUTOMU)  
熊本大学・文学部・教授  
研究者番号：50117339

菊池 健 (KIKUCHI KEN)  
熊本大学・医学部附属病院・准教授  
研究者番号：50380994

石原 明子 (ISHIHARA AKIKO)  
熊本大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：50535739

(3) 連携研究者

レビン小林久子 (LEVIN KOBAYASHI  
HISAKO)  
九州大学・大学院法学研究院・教授  
研究者番号：50336038

大渕憲一 (OHBUCHI KENICHI)  
東北大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：70116151

奥村哲史 (OKUMURA TETSUSHI)  
名古屋市立大学・経済学部・教授  
研究者番号：00224171